

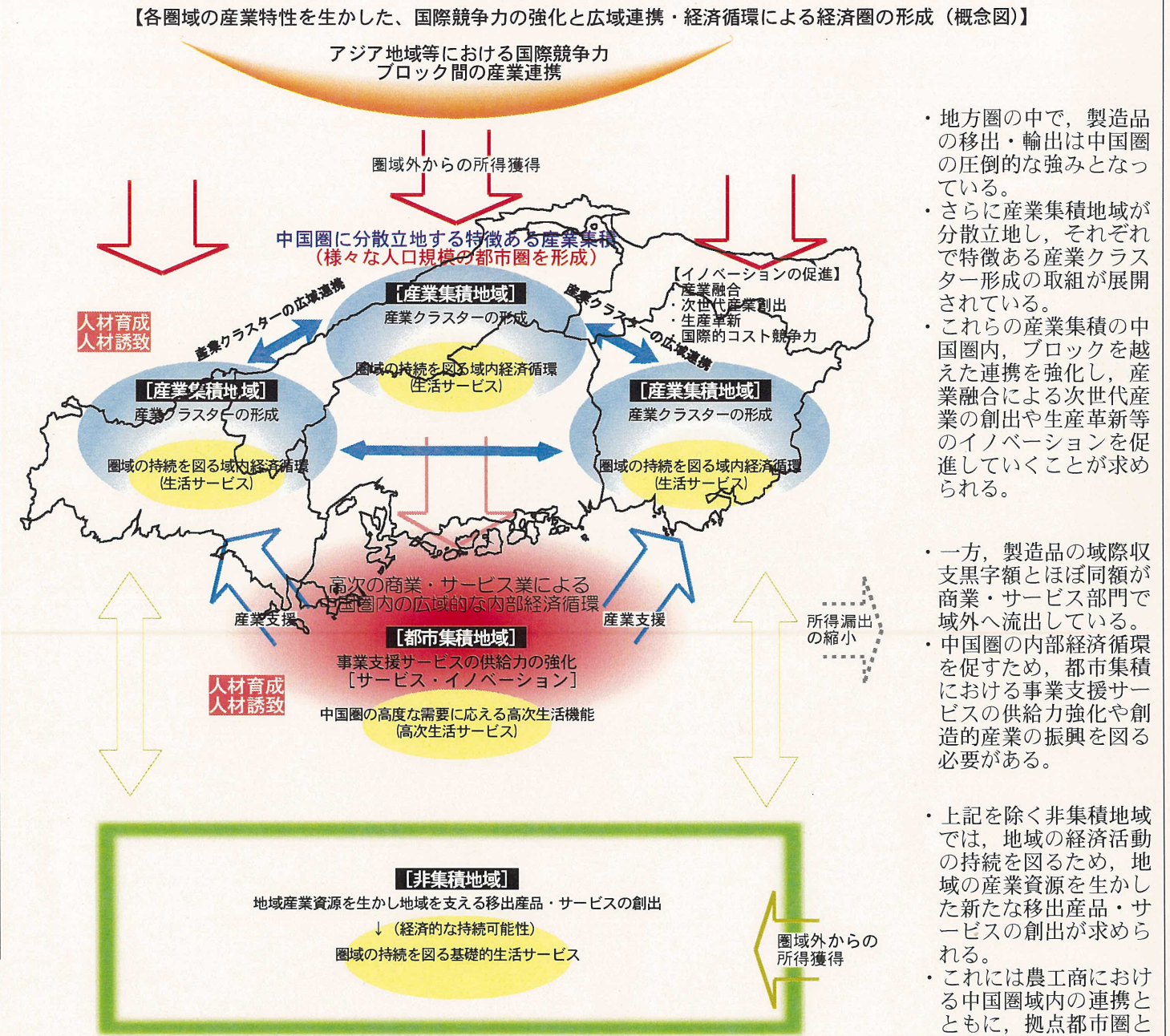
ワーキング会議 中間報告

(検討事項、参考データ)

- ① 産業の広域連携と中国圏の特徴となる産業振興
- ② 中山間地域と都市との連携、それぞれが果たす役割
- ③ 中国圏内外の交流連携

【戦略的目標】	【基本方向】	【内容】	（議論のポイント参考図） 産業の広域連携と中国圏の特徴となる産業振興
---------	--------	------	------------------------------------

<p>【目標1】 国際競争力のある産業の振興</p>	<p>■産業・企業の国際競争力の強化</p> <p>■地域の産業集積における競争優位の確立と新産業の創出促進</p> <p>■産業の国際競争力を保持するエネルギー環境対策の推進</p>	<p>○基幹産業の国際競争力の強化</p> <p>○グローバル企業の育成と海外企業の立地促進</p> <p>○国際物流の効率化</p> <p>○クラスター形成による競争力の創出・強化</p> <p>○地域の知財を生かした新産業の創出</p> <p>○省資源化・再資源化の推進，新エネルギーの活用</p>
<p>【目標2】 地域資源を活用し，中国圏における経済循環を高める産業の振興</p>	<p>■地域の産業競争力に寄与し，広域的な経済循環の核となる事業支援サービス業の振興</p> <p>■地域の経済循環を高める生活支援サービス業の振興</p> <p>■地域資源の活用と域内連携による産業創出</p>	<p>○事業支援サービスの生産性向上，集積促進，他産業との連携力の強化</p> <p>○生活支援サービス業の高度化，生産性の向上</p> <p>○生活支援サービス業の新たな手法による提供</p> <p>○地域資源を生かした創造的産業の育成</p> <p>○農林水産品，産地の技術，観光資源等を生かした域外所得獲得型の産業の創出</p>
<p>【目標3】 ブロックを越えた産業連携</p>	<p>■瀬戸内海を活用した経済圏の形成</p> <p>■環日本海地域における経済交流・産業連携の推進</p>	<p>○ブロックを超えた産業クラスター間の連携，新たな産業融合の促進</p> <p>○環日本海地域で連携したアジア地域との経済交流の活発化</p>
<p>【目標4】 産業を支える人材の育成と雇用の確保</p>	<p>■産業を支える人材の確保・育成</p> <p>■多様な人材の活用と雇用の確保</p>	<p>○ものづくり産業を支える人材の確保・育成</p> <p>○サービス産業を支える人材の確保・育成</p> <p>○女性，高齢者，外国人等，多様な人材の活用と雇用の確保</p>



【中国圏の将来像を考える上での、これまでの議論のポイント】

- 国際的な競争原理の中で、中国圏の産業クラスターはどのような競争戦略を描くのか。産業クラスター間の広域連携による産業融合，コスト競争力を強化するインフラ整備等がポイントになる。
- 産業の国際競争力や中国圏内の経済循環のため，都市型サービスに注目する必要がある。サービス業の生産性向上を図る「サービス・イノベーション」という視点や集積拠点の整備を検討する必要がある。
- 中小都市圏が小規模な経済圏としてできるだけ自立性を高めていくという視点を検討項目に入れていく必要がある。
- 中山間地域が供給できる基礎的な素材を加工して移出産業とする振興方策に近接地域で連携して取り組む必要がある。地域で商品化するには，農・工・商等の連携が必要である。
- ものづくりのほか，サービス業の人材育成に力を入れる必要がある。サービス業の人材育成には創造的な環境の整備や技術的または，知的生産の視点を取り入れたカリキュラム等が重要である。

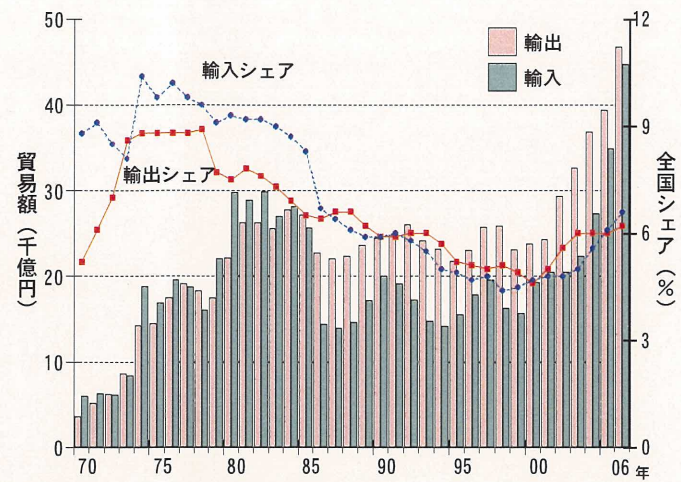
分散立地する産業集積によって，様々な人口規模の都市圏を形成している。中国圏では，製造品移出に対する中小都市圏の貢献も大きい。中小都市では商業・生活サービスの活力が低下しており，圏域の持続性に配慮した新たな産業振興策が求められる。

労働力人口が減少する中で，専門的・技術的職業やサービス職業の従事者は増加している。上記の産業振興を支える人材として，ものづくり産業，サービス産業の両方で人材育成，人材の誘致を図る必要がある。

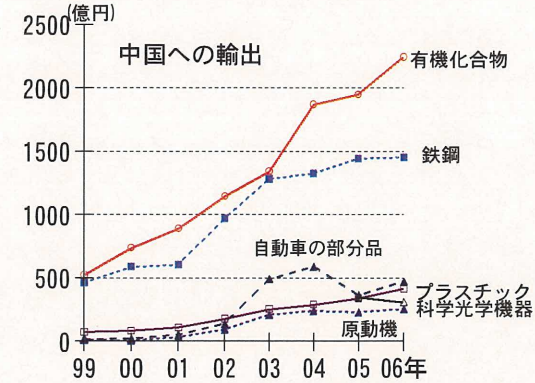
「産業の広域連携と中国圏の特徴となる産業振興」に関する参考データ

●GDPが緩やかに低下する中で、中国圏の輸出は全国を上回るペースで増加しており、中国圏経済を下支している。アジア向け輸出が拡大しており、有機化合物、鉄鋼等、中国圏の特徴である素材産業が国際競争力を発揮している。

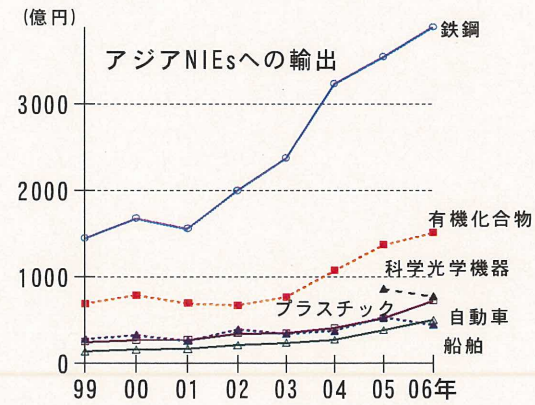
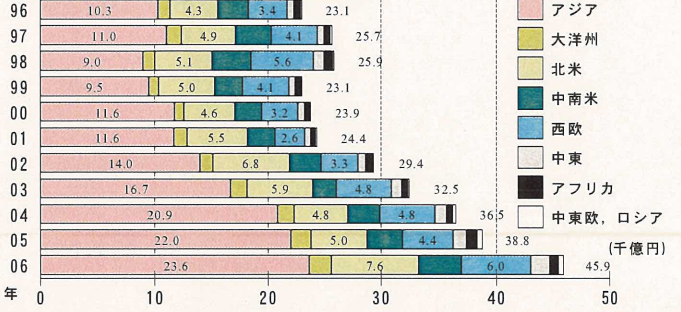
【中国圏の輸出額・輸入額と対全国シェア】



【アジアへの品目別輸出額の推移】



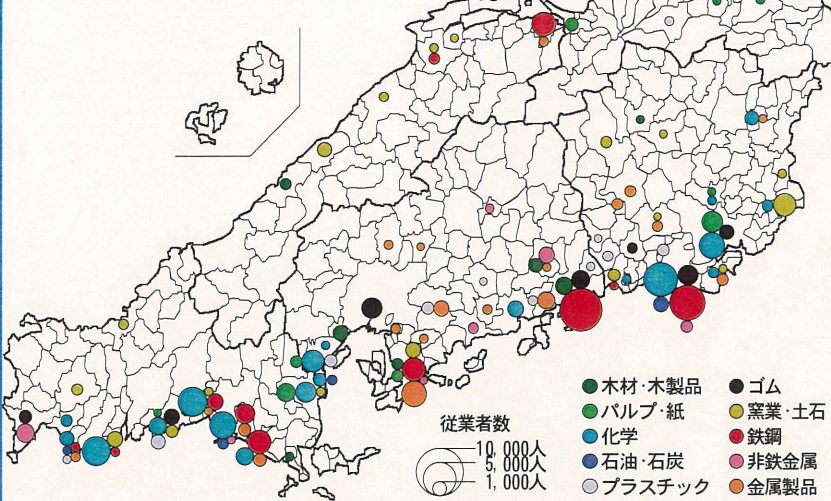
【中国圏の相手国別輸出額の推移】



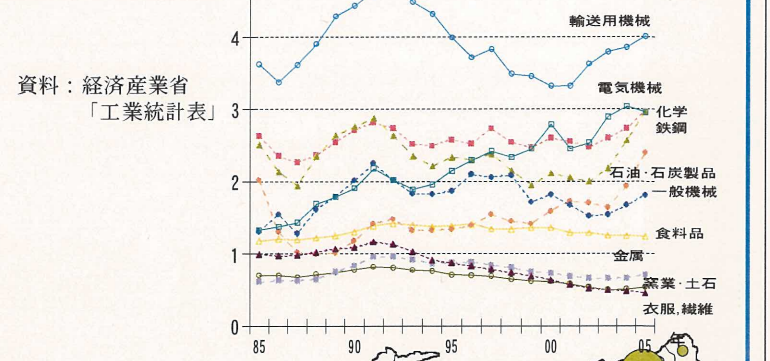
資料：神戸税関資料より作成

●中国圏では、輸送用機械、電気機械、化学、鉄鋼、石油・石炭、一般機械等、主力の基礎素材、加工組立製造業が出荷額を伸ばしている。中国圏の特徴はこれらの製造業が分散して産業集積を形成していることであり、各産業集積で産業クラスターの形成と産業創出の取組が推進されている。

【中国圏の工業集積(基礎素材)】



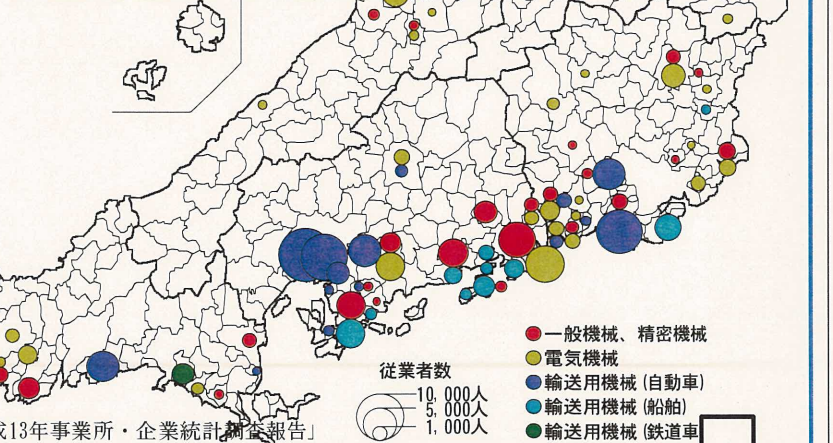
【中国圏の産業別出荷額】



【産業クラスターの考え方に基づく産業創出の取組例】

- 機械産業、循環型産業の分野の産業クラスター計画(中国経済産業局)
- 鳥取クリスタル・コリドール構想(鳥取県)
- 「健・食・知」スマート・コリドール(鳥取県)
- 次世代・地域資源産業育成支援事業(鳥取県)
- 新産業創出プロジェクト(鳥取県)
- ハートフルビジネスおかやま(岡山県)
- ミクロものづくり岡山(岡山県)
- メディカルテクノバレー構想(岡山県)
- 循環型産業クラスター形成事業(岡山県)
- 自動車関連産業の次世代型研究開発等への支援(広島県)
- バイオクラスターの形成促進(広島県)
- 山口県環境産業マルチパーク構想(山口県)
- やまぐち・うべ・メディカル・イノベーション・クラスター

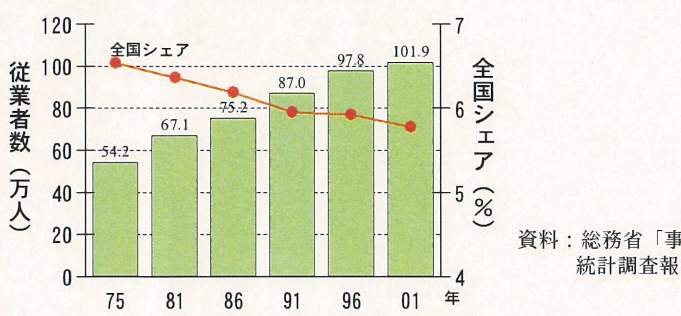
【中国圏の工業集積(加工組立)】



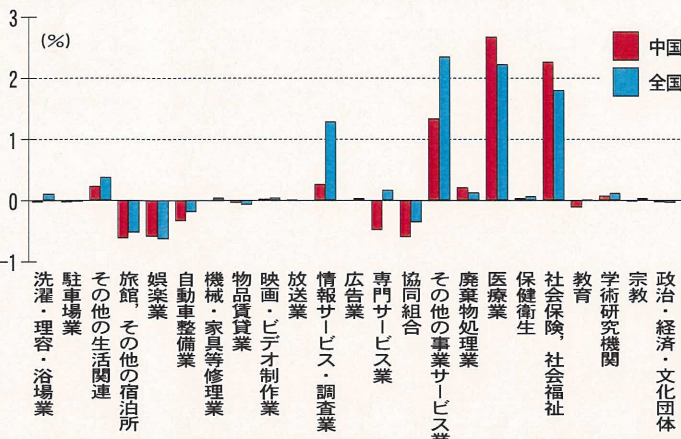
資料：総務省「平成13年事業所・企業統計調査報告」

●中国圏でもサービス業の従業者は増加しているが、全国シェアは低下が続いている。分野別では特に、他の事業サービス、専門サービス、情報サービスなど都市型の事業支援サービスの伸びが低い。

【中国圏のサービス業従業者の推移】

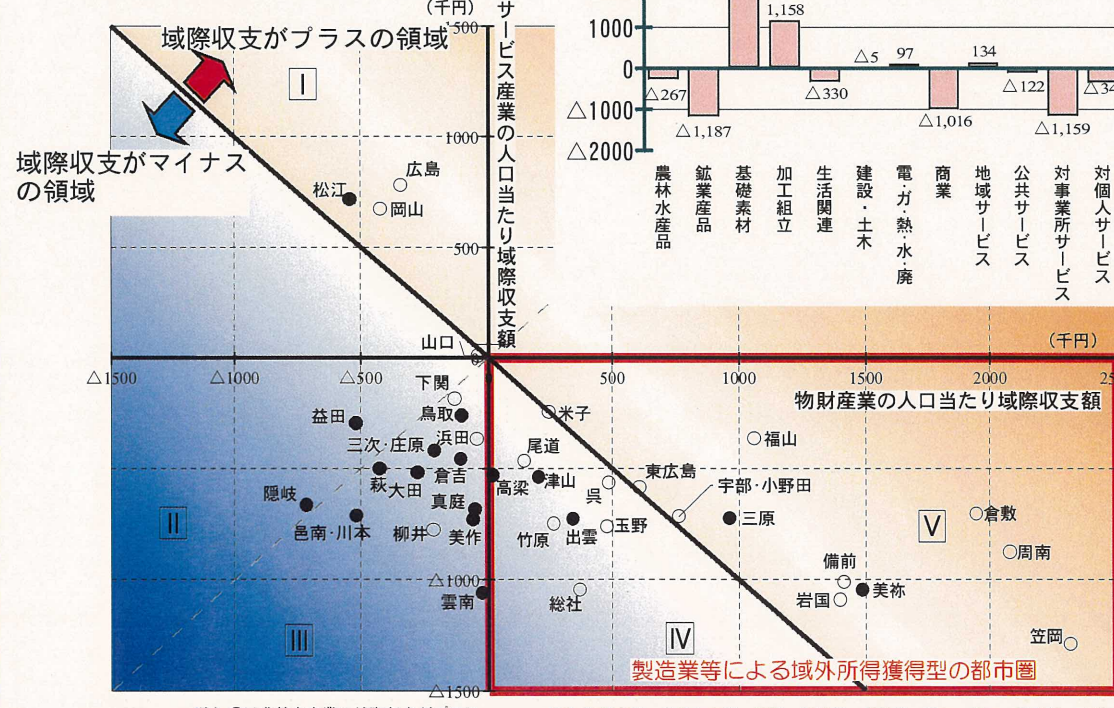


【サービス業従業者の増加率寄与度(96~01年)】



【都市圏別の域際収支額】

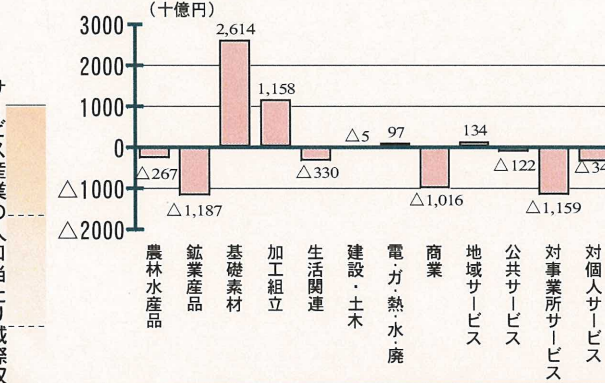
●中国圏では支出額に対して産業の所得獲得力が十分でない圏域(収支の赤字圏域)が中小都市圏や中山間地に広がっている



(注) ●は農林水産業の域際収支がプラス、○はマイナスの都市圏を示す
 (資料) (財)ちゅうごく産業創造センター「中国地方経済圏・生活圏調査報告書」(平成19年3月)

【中国圏の産業別域際収支】

●中国圏では、製造品生産(鉱産品の赤字調整後)により圏外から獲得した所得のほぼ同額が、商業・サービス業により流出している。



【自動車関連産業の集積地の連携と国際的な産業拠点形成のイメージ】

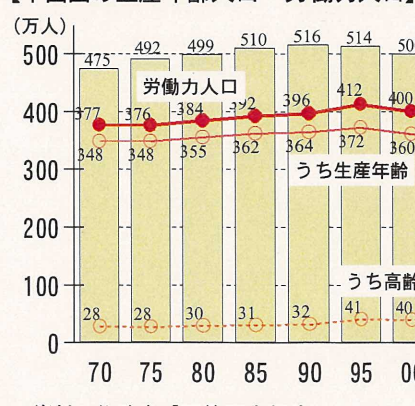
●自動車や電気機械など産業集積のブロックを越えた連携の動きがみられる。



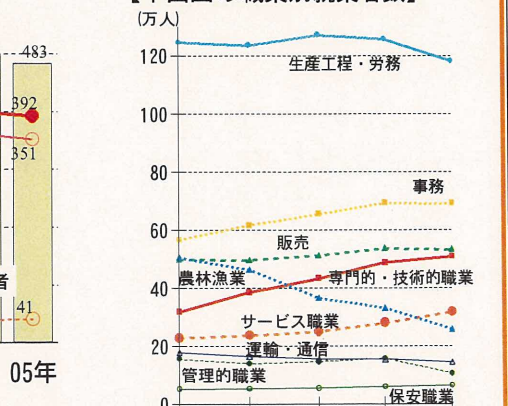
資料：「瀬戸内海地域の総合的整備のあり方調査報告書」(平成14年3月)

●中国圏では生産年齢人口・労働力人口ともに減少が続いている。その中で、専門的・技術的職業従事者やサービス職業従事者が増加している。

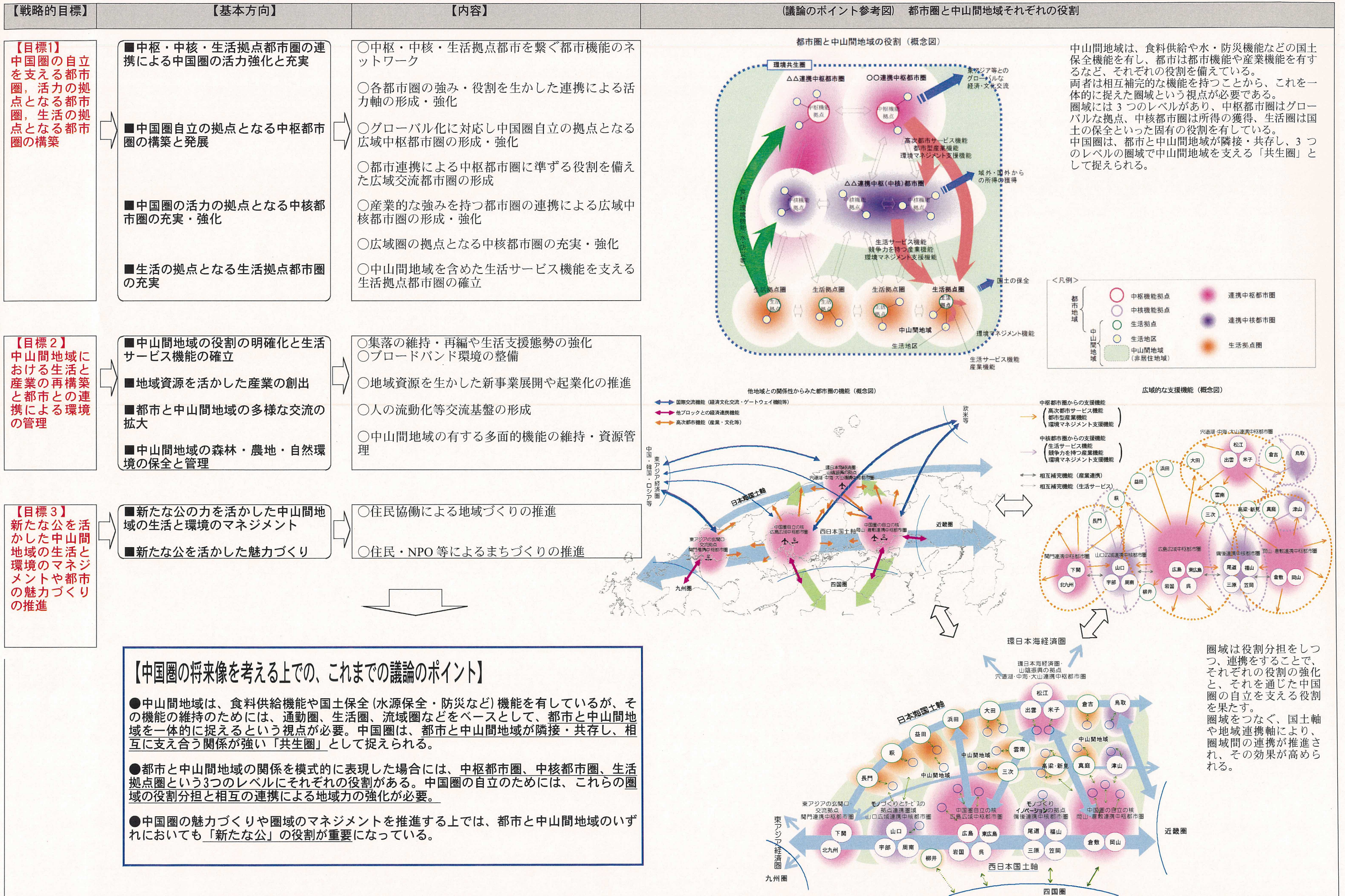
【中国圏の生産年齢人口・労働力人口】



【中国圏の職業別就業者数】



資料：総務省「国勢調査報告」

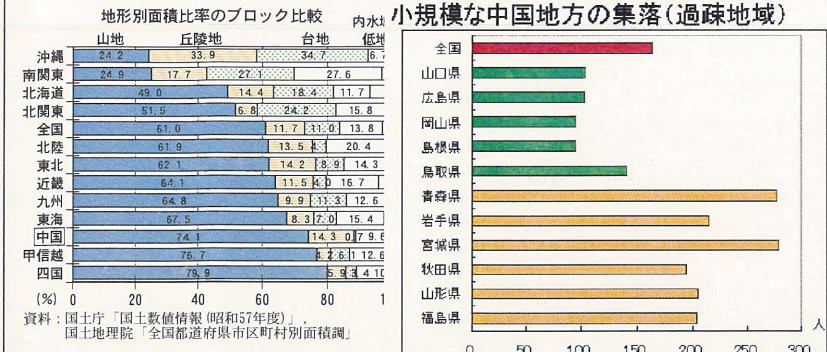


【中国圏の将来像を考える上での、これまでの議論のポイント】

- 中山間地域は、食料供給機能や国土保全(水源保全・防災など)機能を有しているが、その機能の維持のためには、通勤圏、生活圏、流域圏などをベースとして、都市と中山間地域を一体的に捉えるという視点が必要。中国圏は、都市と中山間地域が隣接・共存し、相互に支え合う関係が強い「共生圏」として捉えられる。
- 都市と中山間地域との関係を模式的に表現した場合には、中枢都市圏、中核都市圏、生活拠点圏という3つのレベルにそれぞれの役割がある。中国圏の自立のためには、これらの圏域の役割分担と相互の連携による地域力の強化が必要。
- 中国圏の魅力づくりや圏域のマネジメントを推進する上では、都市と中山間地域のいずれにおいても「新たな公」の役割が重要になっている。

「中山間地域と都市との連携、それぞれが果たす役割」に関する参考データ

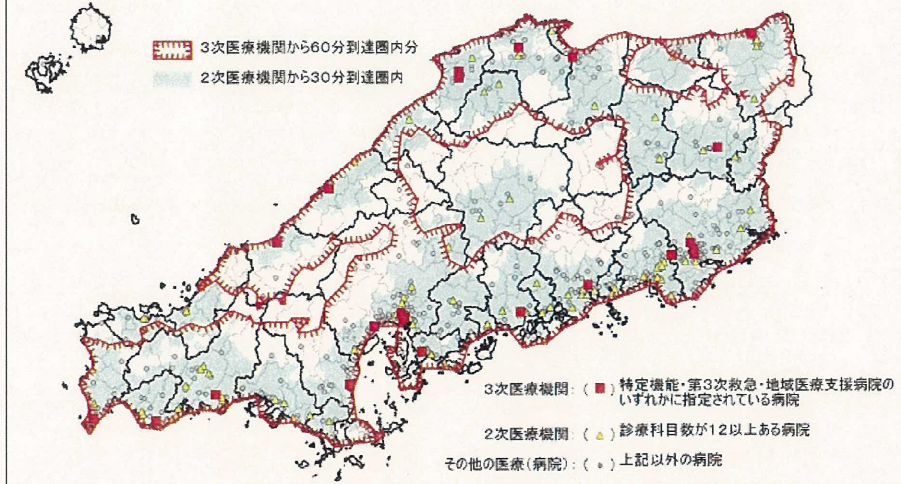
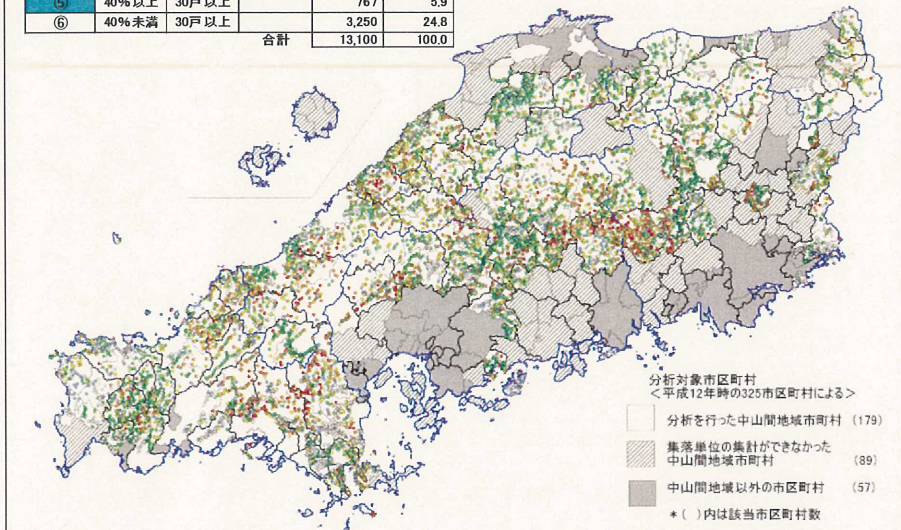
●【地形と集落配置】…中国圏においては山地部の割合が多く、たたら製鉄などで古くから山間地域の開発が進んだため、規模が小さい集落が数多く分布している。



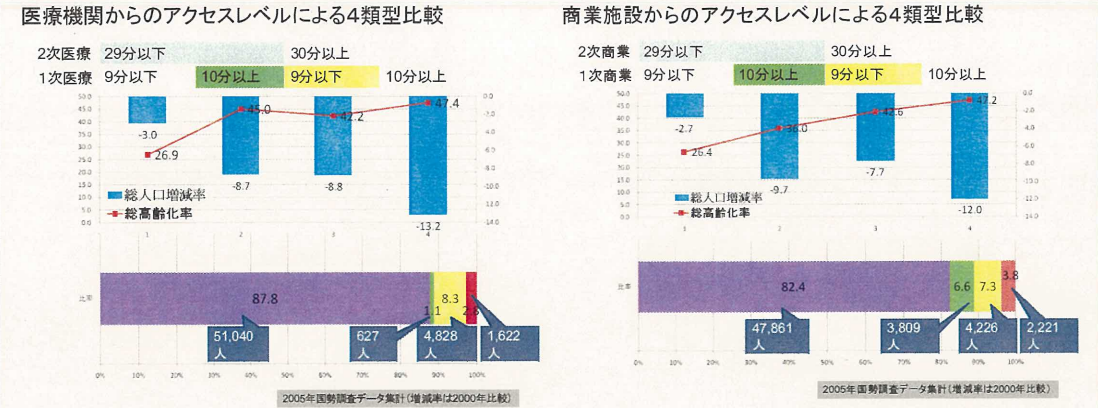
●【集落の規模と高齢化】…世帯数19戸以下、高齢化率50%以上の小規模高齢化集落が、都市の比較的近くにも分布している。

●【医療拠点と集落配置】…中山間地域では、二次医療機関や三次医療機関の利用圏から外れる地域がみられるが、これらの地域には小規模高齢化集落の多くが分布している。

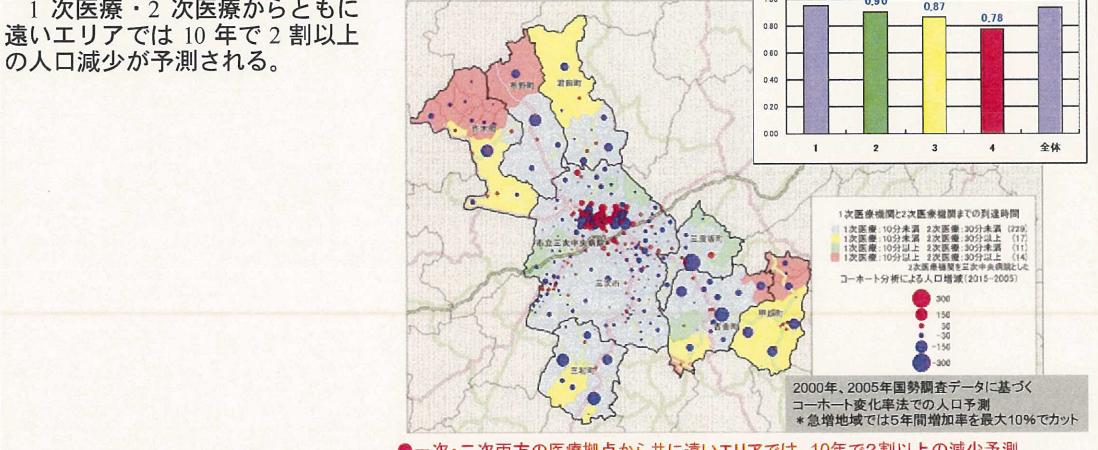
集落タイプ	高齢化率	世帯数	備考	集落数	割合 (%)
①	70%以上	9戸以下		370	2.8
②	50%以上	19戸以下	①除く	1,532	11.7
③	40%以上	29戸以下	①②除く	2,417	18.5
④	40%未満	29戸以下		4,764	36.4
⑤	40%以上	30戸以上		767	5.9
⑥	40%未満	30戸以上		3,250	24.8
合計				13,100	100.0



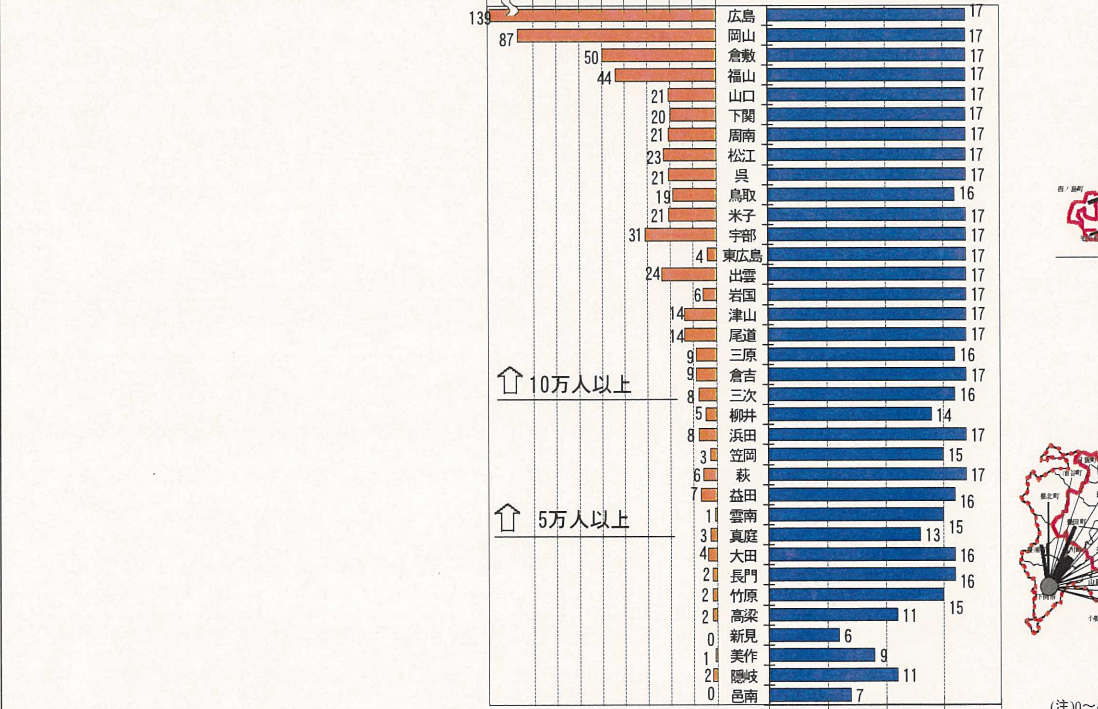
●【医療機能・商業機能と集落の動向】(三次市の例)…医療機関へのアクセス水準が高い(1次医療より9分以下かつ2次医療より29分以下)と、人口減少は緩やかであり、高齢化率も比較的低い。商業施設についても同様の傾向があり、集落の安定的な存続のためには、医療機能と商業機能への適切なアクセス水準が重要である。



●【医療機能へのアクセス水準と将来の人口予測(三次市の例)…1次医療・2次医療からともに遠いエリアでは10年で2割以上の人口減少が予測される。

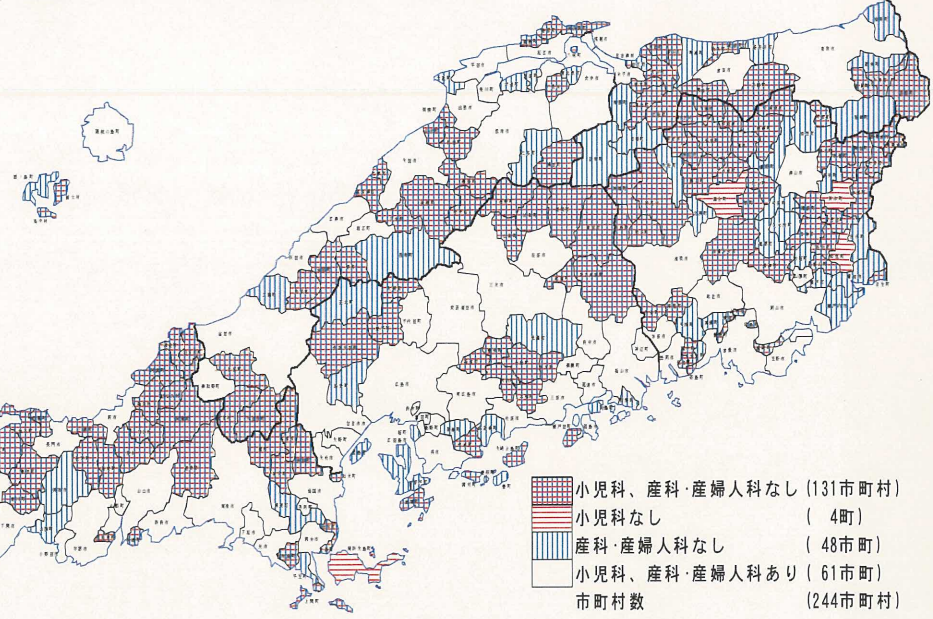


●【都市圏規模と医療機能】…都市圏人口規模と医療機能とは相関をしており、10万人以上の都市では、重要な診療科目(17科目)はほぼ充足し、産婦人科医師数も一定規模以上確保されている。一方、10万人未満都市圏では、重要な診療科目が不足するか、産婦人科医師数が少なくなる。広域合併前の自治体レベルでみると、空白地域が少なからず存在する。

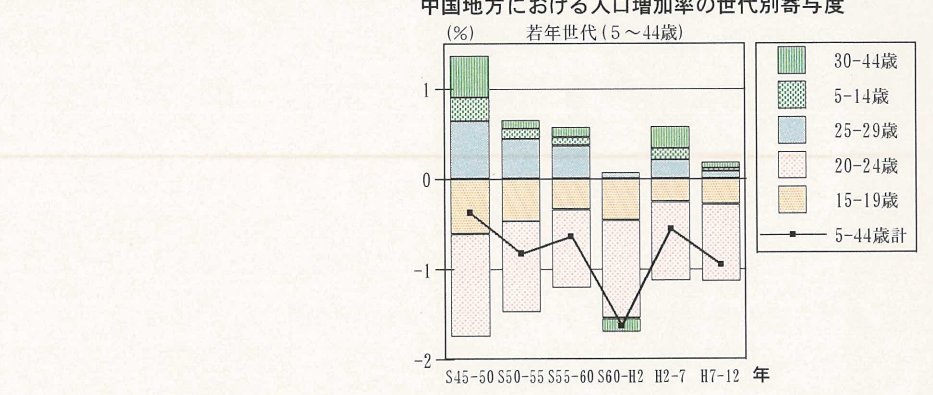


(資料) 2004年医師・歯科医師・薬剤師調査, 平成17年国勢調査
(注) 「平成17年医療施設調査報告書」一般外来患者数に占める割合が1%以上の17診療科目を対象とした。

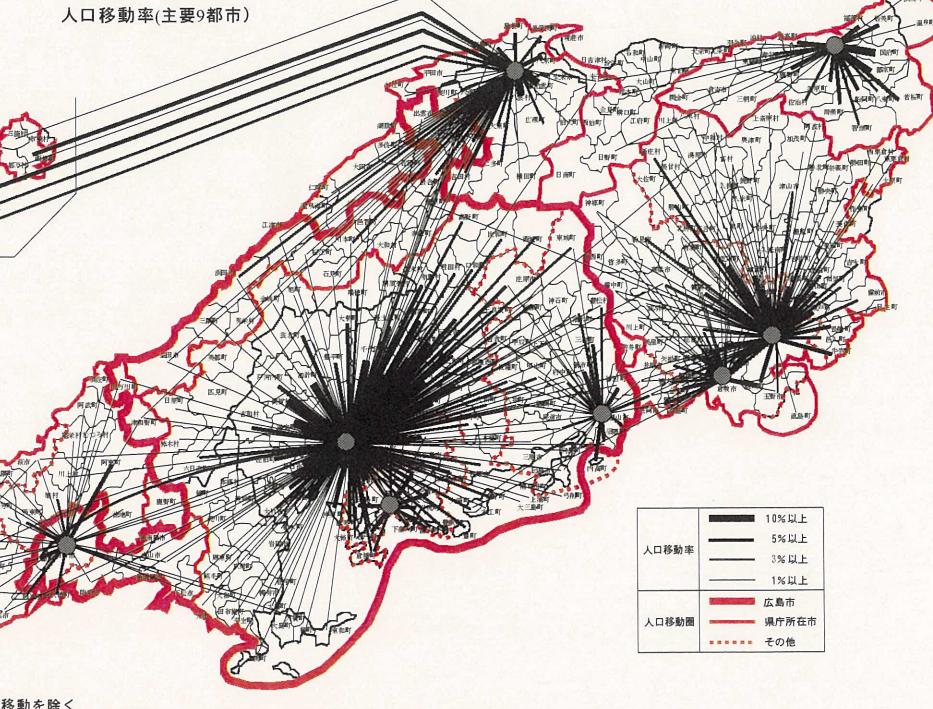
医師(小児科・産科・産婦人科)の空白地域



●【中国圏の若者吸引力】…人口増加率の動向を見ると、中国圏はほぼ一貫して、15~24歳の若者が転出超で推移している。これは中国圏において、進学先や若者に魅力のある雇用の場が不足していることを意味している。



●【人口吸引力のある都市】…市町村間人口移動をみると、中国圏においては広島市と岡山市が比較的広い人口吸引エリアを形成する。



(注) 0~4歳の移動を除く
b市のa市への人口移動率=1995~2000年におけるa市への移動数/1995年のb市の人口
(資料) 国勢調査(2000年)

【戦略的目標】	【基本方向】	【内容】 網掛けは産業W, 中山間・都市Wでの検討内容	(議論のポイント参考図) 中国圏内外の交流連携
---------	--------	--------------------------------	-------------------------

【目標1】
個性輝く多様な地域の交流・連携による中国圏の一体的発展

- 歴史・文化の継承・発展
- 都市と中山間地域の多様な交流の拡大
- 中枢・中核・生活拠点都市圏の連携による中国圏の活力強化と充実
- 高次な社会的サービス機能の充実
- 地域の産業集積における競争優位の確立と新産業の創出促進

- 各地域の個性・魅力を活かした歴史・文化交流圏の形成
- 流域圏(海域を含む)をベースにした国土管理、環境保全の連携
- 人の流動化等交流基盤の形成(中山間・都市ワーキング)
- 中枢・中核・生活拠点都市を繋ぐ都市機能のネットワーク(中山間・都市ワーキング)
- 各都市圏の強み・役割を活かした連携による活力軸の形成・強化(中山間・都市ワーキング)
- 高等教育・人材育成機能の配置と機能分担・連携(産業ワーキング)
- 高度医療・福祉機能の配置と機能分担・連携(中山間・都市ワーキング)
- クラスター形成による競争力の創出・強化(産業ワーキング)
- 地域の知財を生かした新産業の創出(産業ワーキング)
- 全ての項目に共通するものとして
- 広域連携を支える交通基盤・情報基盤の充実

【目標2】
他ブロックを含めた交流・連携により活力・魅力を相乗的に高める中国圏の形成

- 広域観光、インバウンド観光の振興
- 広域ブロック間の交流・連携の推進
- 山陽・瀬戸内海地域における経済圏の形成

- 観光資源・魅力の発掘・創出
- 観光情報の発信と受け入れ態勢の整備
- 観光ネットワークの形成
- インバウンド観光に結びつく地域の魅力の創出
- 西日本を結節する地域特性を生かした他ブロックとの連携
- 環日本海地域で連携したアジア地域との経済交流の活発化(産業ワーキング)
- ブロックを越えた産業クラスター間の連携、新たな産業融合の促進(産業ワーキング)
- 全ての項目に共通するものとして
- 広域連携を支える交通基盤の充実

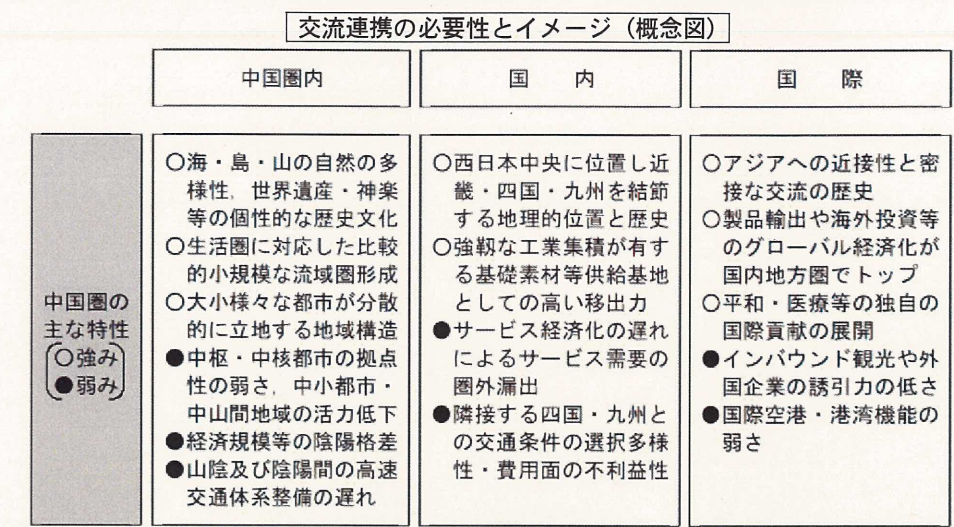
【目標3】
世界に開かれた交流・連携を進めグローバル社会で存在感を発揮する中国圏の創造

- 国際貢献・交流の拡大
- 産業・企業の国際競争力の強化

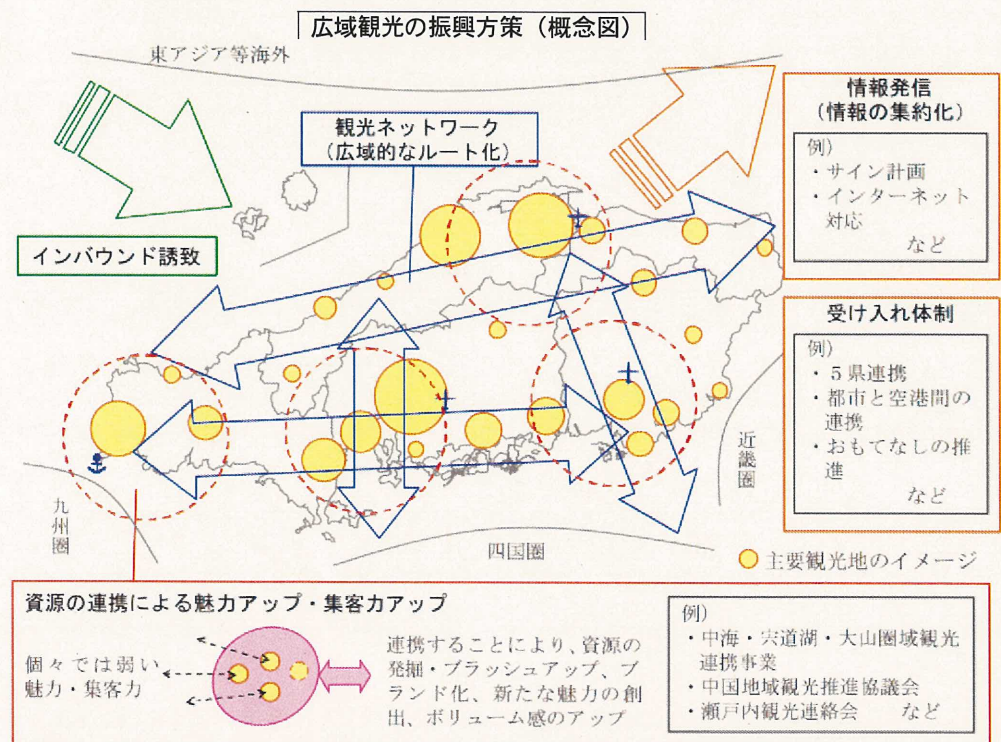
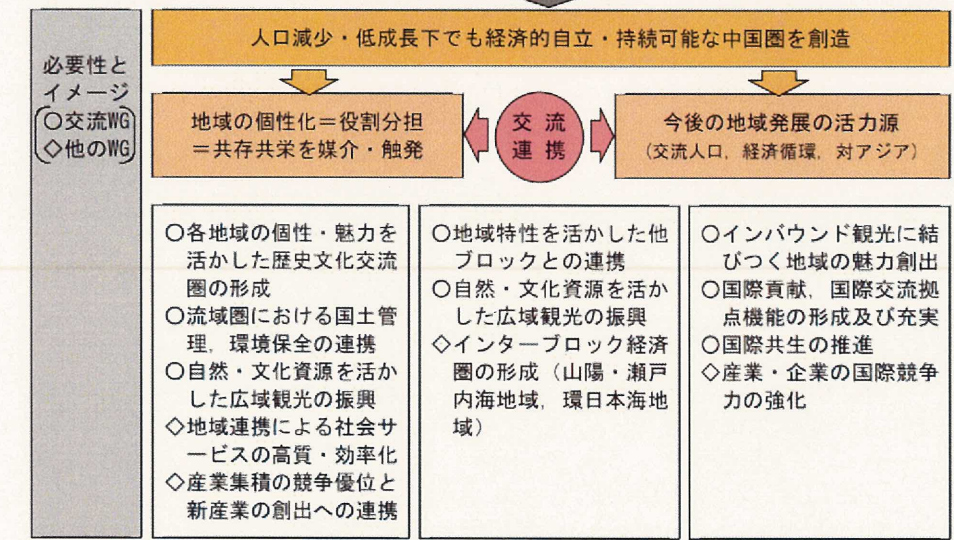
- 国際貢献、国際交流拠点機能の形成及び充実
- 国際共生の推進
- グローバル企業の育成と海外企業の立地促進(産業ワーキング)
- 全ての項目に共通するものとして
- 国際物流の効率化(産業ワーキング)
- グローバルゲート機能の充実

【中国圏の将来像を考える上での、これまでの議論のポイント】

- 交流・連携は手段であり、なぜ交流・連携するのか、中国圏内では歴史・文化への着目や社会的サービスの維持・充実などの目的を明確にすることが必要。
- 対外的には、産業資源を活かしたブロックをまたがる産業集積の形成、環境管理技術を活かした国際交流拠点(国際貢献)機能強化などの視点から、中国圏の独自性・個性の発揮が必要。
- 21世紀の成長産業で地域活性化への大きな効果が期待できる観光に注目し、観光の連携により地域のポテンシャル・魅力を高めることが必要。また、従来型の観光は低迷しており、産業観光等の新たな観光や、世界遺産等の地域資源を活かしたインバウンド観光の振興が必要。



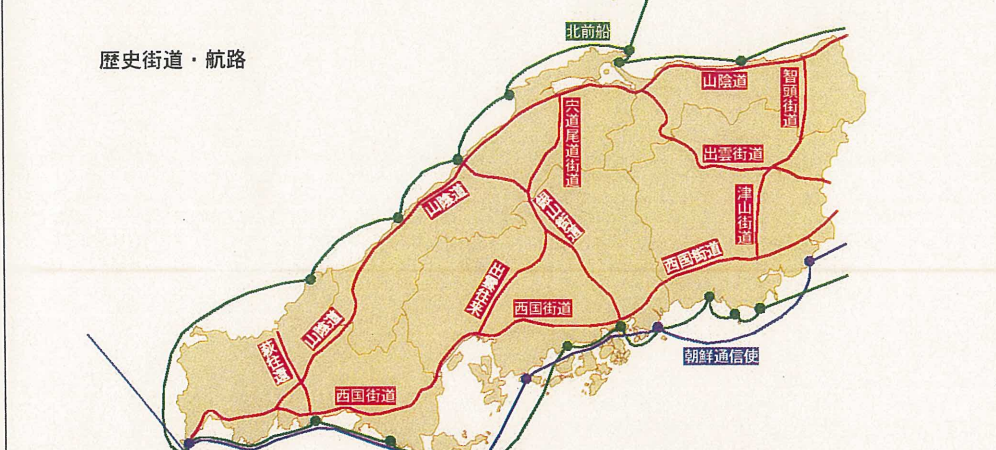
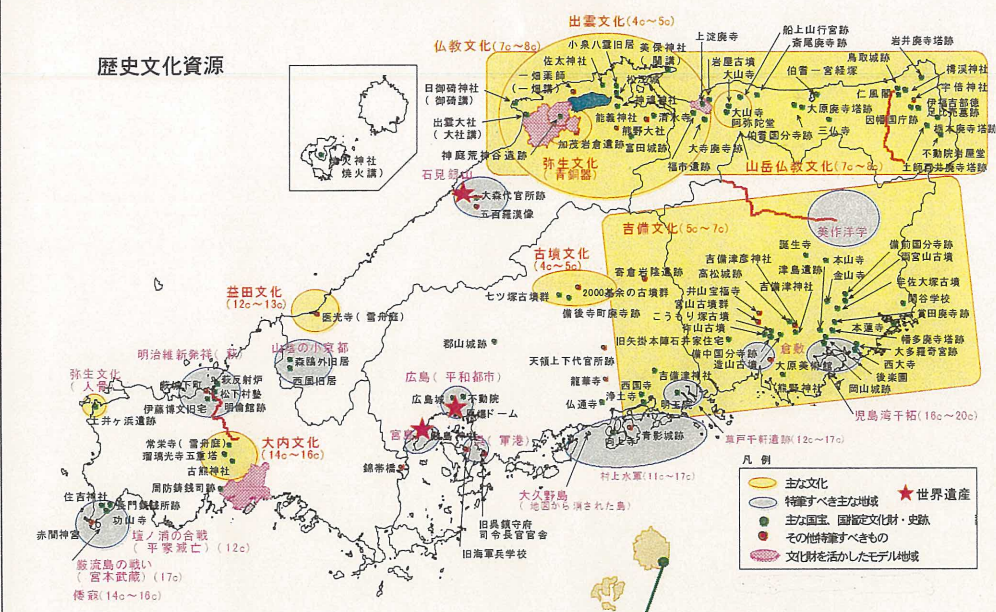
中国圏においては、地域特性(強み・弱み)を踏まえたうえで、「人口減少・低成長下でも自立・持続可能な中国圏を創造」していく必要がある。
このためには、地域間の交流・連携により、「地域の個性化・役割分担を促進し共存共栄」を図ることが求められる。
同時に、地域間の交流・連携を通じた交流人口、経済循環、アジアの成長などを「今後の地域発展の活力源」として活かす視点が求められる。



広域観光の振興にあたっては、中国圏内の観光地の魅力創出とネットワーク化に加えて、中国圏が一体となった情報発信・プロモーションやインバウンド誘致が求められる。さらにこれらの取組をより効果的にするため、他ブロックとの連携を図る必要がある。

「中国圏内外の交流連携」に関する参考データ

●【歴史文化】…中国圏は、古代の出雲文化や吉備文化、原爆ドーム、厳島神社、石見銀山の3つの世界遺産など、特色のある固有の歴史文化を有している。



●【流域圏】…中国圏は、県境を越えた流域圏など、生活圏に対応した比較的小規模な多くの流域圏により形成されている。



アビールエリア (海田湾)
 …親水等の利用に適した水環境の再生

アビールエリア (太田川河口部~五日市)
 …人々が広島湾の保全・再生に関心を持てるような海と川との連携による水辺の拠点の形成

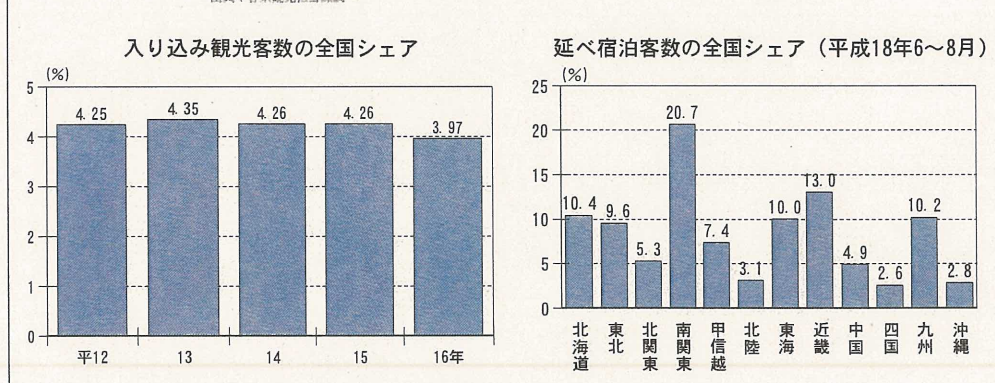
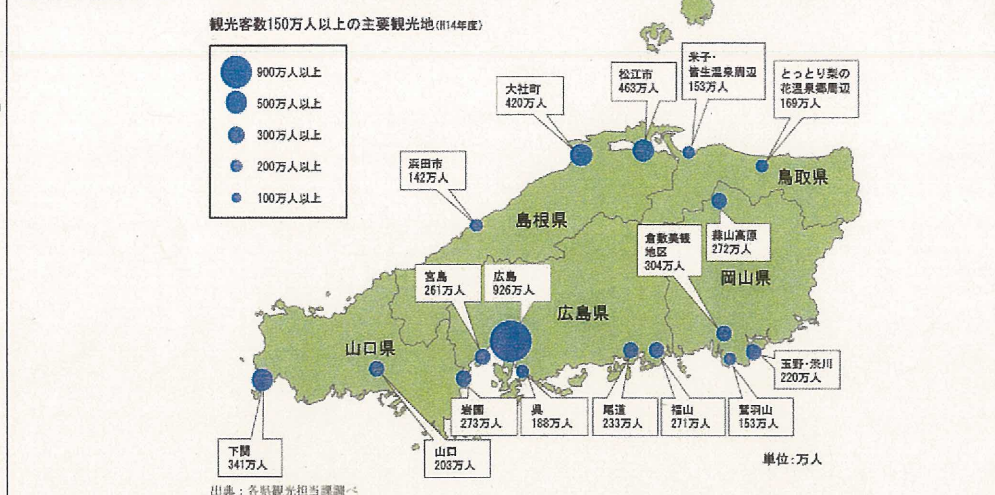
アビールエリア (宮島周辺)
 …地域との連携による自然景観、歴史・文化の保全のための拠点の形成

平成2年度に沿川18市町村による江の川の特徴を活かした地域づくり計画の検討会を発足し、平成3年度には全流域に呼びかけ、40市町村が参加した「江の川文化圏会議」を結成。毎年、首長が参加する「サミット」、それを支える「分科会」等の活動を実施。

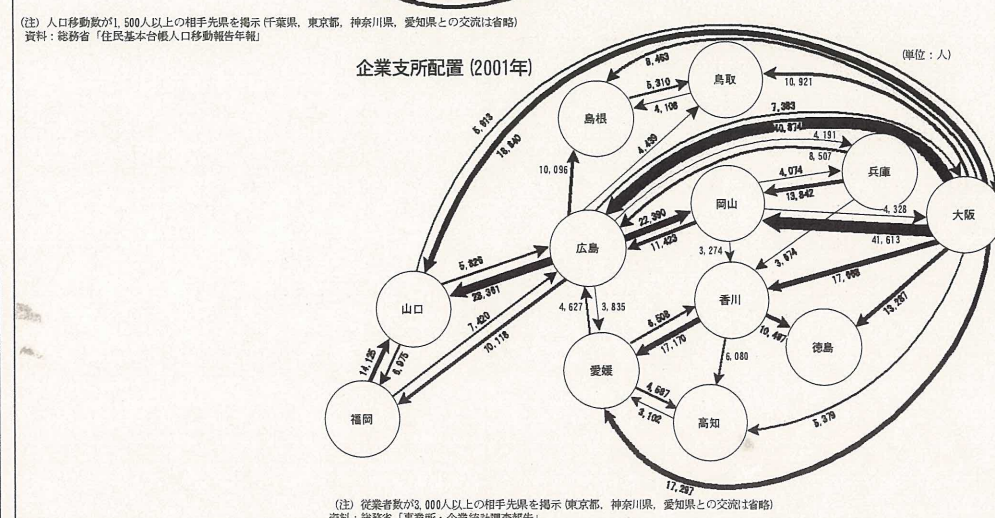
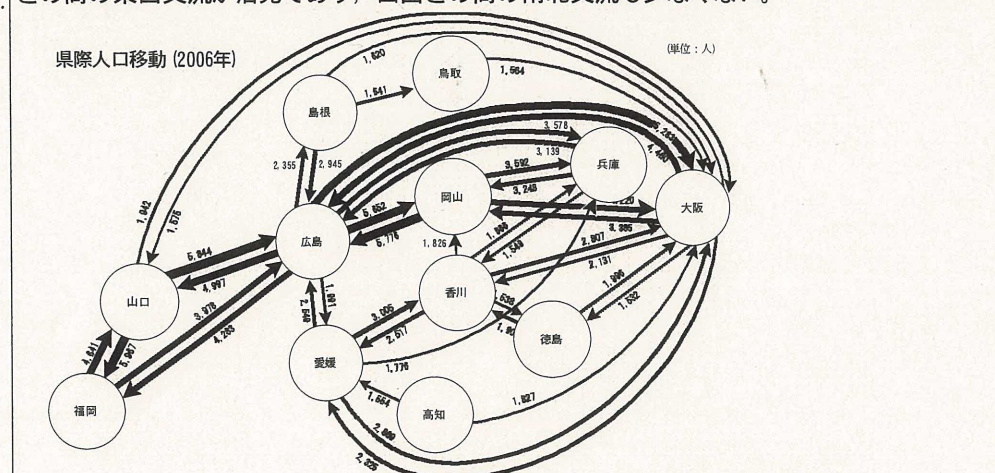
現在は、市町村合併により6市6町 (H17. 10. 1現在) が参加し、「安全・安心な楽しい地域づくり」を目指して活動を推進。

平成17年度江の川文化圏会議川本サミットのサミット宣言文が採択され、今後の方針を確認。

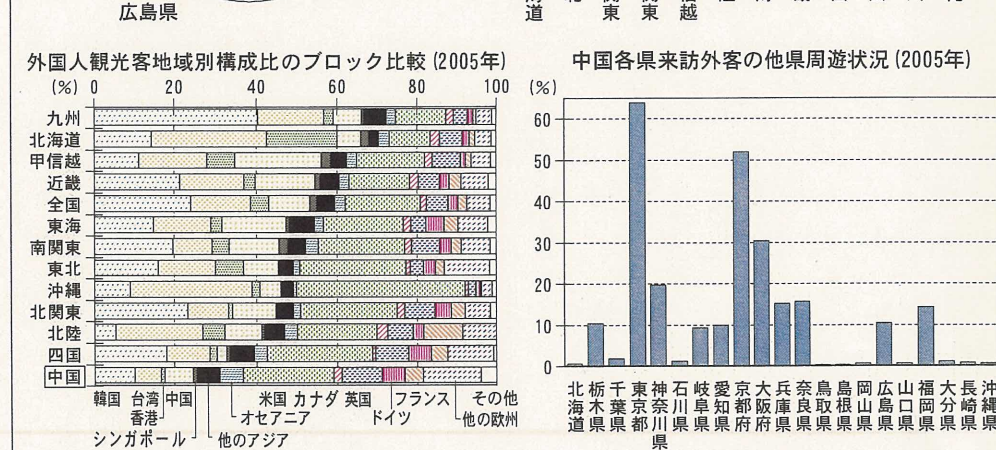
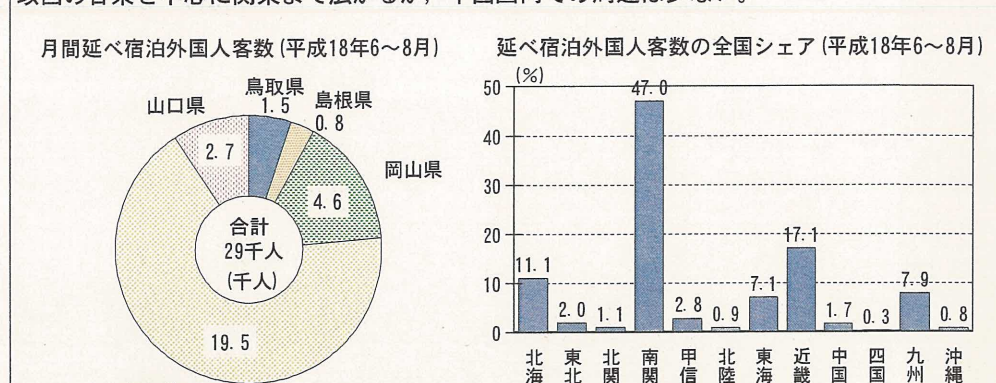
●【広域観光】…主要観光地が各県に分布しているが、入り込み観光客数や宿泊客数の全国シェアは4~5%程度にとどまり、人口・経済規模 (全国シェア約6%) に比べて観光客の吸引力は弱い。



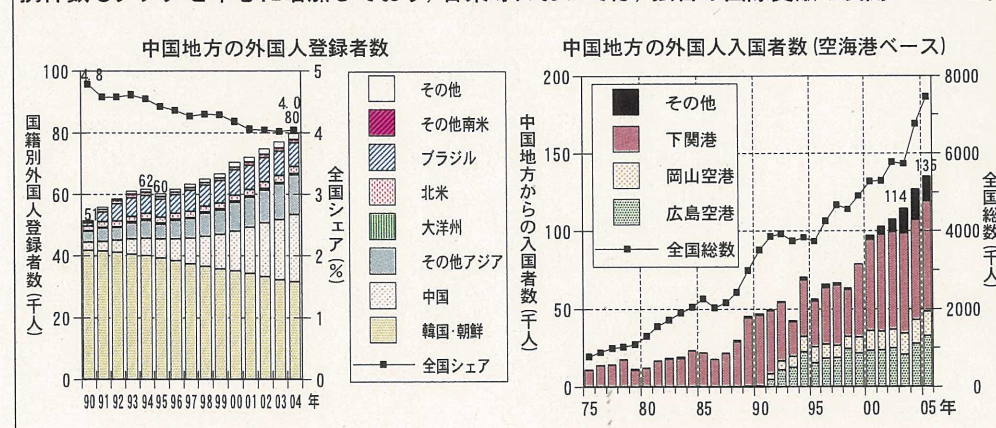
●【ブロック間交流】…中国圏においては、圏内交流だけでなく、大阪府・兵庫県や福岡県との間の東西交流が活発であり、四国との間の南北交流も少なくない。



●【インバウンド観光】…月間の宿泊外国人客数は約3万人で、その2/3を広島県が占め、全国シェアは2%弱にとどまり、人口・経済規模 (全国シェア約6%) に比べて外国人観光客の吸引力は弱い。中国圏は、欧米からの観光客が多いことに特色があり、韓国・台湾・中国等のアジアからの観光客の割合は全国で最も低い。また、外国人観光客の周遊先は、近畿以西の各県を中心に関東まで広がるが、中国圏内での周遊は少ない。



●【国際貢献・交流】…中国圏の外国人登録者数や外国人入国者数のほか、自治体の友好提携件数もアジアを中心に増加しており、各県等においては、独自の国際貢献を展開している。



各県等の主な取組, 関連組織等	内容等 (●取組, ○組織等)
鳥取県	●環日本海諸国との交流 ○鳥取大学乾燥地研究センター
島根県	●北東アジア地域との交流 ○島根県立大学北東アジア地域研究センター
岡山県	●岡山発国際貢献活動の推進 ○岡山県国際団体協議会, AMDA, 公設国際貢献大学校
広島県	●復興支援, 放射線被爆者医療, 外国人材育成支援, 核兵器廃絶と恒久平和の取組 ○広島県国際貢献研究所等, 国連訓練調査研究所, ひろしま国際プラザ (JICA中国セクター等)
広島市	●核兵器廃絶に向けた取組, 平和の創造 ○広島市立大学広島平和研究所
山口県	●環黄海地域との交流 ○山口県国際総合センター
北九州市	●環境国際協力, 環黄海経済圏構想の推進 ○北九州国際技術協力協会, 地球環境戦略研究機関, JICA九州セクター, 国際東アジア研究センター